アナキズムの哲学人類学

長崎大学多文化社会学部准教授 森 元斎

自己紹介 森元斎とは何者か

- 1983年東京都生まれ、哲学・思想史
- 大阪大学大学院人間科学研究科修了、博士(人間科学)
- 自然・社会・人間・文化に関する現代哲学を研究
- 単著に『具体性の哲学』(以文社、2015)、『アナキズム入門』(ちくま新書、2017)、『国道3号線』(共和国、2020)、『もう革命しかないもんね』(晶文社、2021)、共著に『VOL5 エピステモロジー』(以文社、2011)、『多文化社会学解体新書』(松本工房、2021)、共訳書に『ギリシア デフォルト宣言』(河出書房新社、2015)、『思弁的実在論入門』(人文書院、2020)、『反転する革命』(以文社、近刊)など

アナキズムとは?
anarchismを分解して考えてみよう
an と archeとismがくっついた言葉
ismは「主義」
anは否定辞
archeは「支配」「起源」「統治」
だから.....

アナキズムとは?

支配のない状態についての考え方・態度!

ここから、日本に導入された際には、

「無政府主義」とか「反権威主義」とか「無支配主義」、あるいは、 そのまま「アナーキズム」とか「アナキズム」とか「アナルシズム」とか...... ここでは、私が呼び慣れているという理由で、「アナキズム」にひとまず固定

どのようにアナキズムが議論されているかの紹介 鶴見俊輔(1922-2015):

哲学者 ハーバード大学でクワインやホワイトヘッドの講義を受け、戦時中アナキストの嫌疑で強制送還、従軍後、日本を代表する哲学者として京大や東工大、同志社で教壇に立つが、その後在野で社会運動や著作をものす

「権力による強制なしに人間がたがいに助けあって生きてゆくことを理想とする思想」。その思想は「人間の社会習慣の中に、なかばうもれている」。(「方法としてのアナキズム」『方法としてのアナキズム 鶴見俊輔集9』p.3)

- 権力によって、あーしろ、こーしろ、と言われなくても、私たちが生きてく上で、常にすでに やっていくこと
 - →それが、アナキズム

権力支配のない相互扶助の社会 極めて倫理的

→mutual aid クロポトキンなどのアナキストが使用した概念 弱肉強食の世界で、強い個体が生き残ってきたのではなく、 むしろ、強かろうが弱かろうが助け合って生きてきた個体群が 進化の過程で生き残ってきた。それを生物一般だけでなく、人間社会におい ても適当させて分析したのがクロポトキン(『相互扶助論』)

アナキズムの特徴(byグレーバー)
アナキズムは、革命的実践についての倫理的言説を形成する
それに対して
マルクス主義は、革命戦略についての理論的/分析的言説を形成する

とはいえ、共通項はある。双方の奥底に流れるもの。

→コミュニズム!

コミュニズムとは?

そもそも「強大な国家権力による平準化」とか「強権による私的所有の廃絶」 というイメージにまみれている......

とはいえ、実際は、「社会主義」を名乗っても、

「コミュニズム」を名乗った政治体制はほとんどこの世界には存在していない

- ・「コミュニズム」
 - →フランス革命の前後に現れ、労働運動や社会運動、 初期社会主義者たちの中で育まれてきた理念。

その特徴を言葉にすると......

「各人はその能力に応じて、各人にはその必要に応じて」

• 「各人はその能力に応じて、各人にはその必要に応じて」

元々は、**18**世紀の思想家エチエンヌ・ガブリエル・モレリ が創作したもの(らしい)

これが、**19**世紀前半になると、初期社会主義運動において広がっていった この言葉を有名にしたのがマルクスとクロポトキン

- マルクスのいい言葉
- 「コミュニズム社会のより高度な段階で、すなわち諸個人が分業に奴隷的に従属することがなくなり、それとともに精神労働と肉体労働との対立がたんに生活のための手段であるだけでなく、労働そのものが第一の生命欲求になったのち、諸個人の全面的な発展にともなって、またその生産諸力も増大し、共同的富のあらゆる泉がいっそう豊かに湧き出るようになったのちーーそのときはじめてブルジョア的権利の狭い限界を完全に踏み越えることができ、社会はその旗の上にこう書くことができる。各人はその能力に応じて、各人にはその必要に応じて!」

マルクスはここで、低次と高次のコミュニズムに分けて考えている 先の引用箇所は高次のコミュニズム

「各人は能力に応じて働いて、必要に応じて受け取る」 ポイントとなるのは「働き」と「受け取り」との関係 この対応関係は、放棄されている!

つまり、

人は自分のできる範囲内で働けば良く、受け取るものが限定されることはない

→「労働」と「対価」の結びつきが切断されている!

- 低次のコミュニズム搾取するものがもはやいないような状況
 - 例) 工場が労働者評議会によって自主管理されているが、 そこでは、これまでの社会から十分に脱却できておらず、 つい、労働の支出に応じて必要なものを得てしまう
- →こうした「ブルジョア的権利の狭い限界を完全に踏み越えることができ」た時に、「各人はその能力に応じて、各人にはその必要に応じて」というコミュニズムのロジックによって社会が成り立つ

「労働」とその「対価」の関係は無関係

→等価の原理そのものが作動していない

そんなこと可能なの.....?

例) 現代の健康保険

働く能力がある人が働き、病気で働けない人が、必要なものを受け取る

例) 労働組合

どんな職場でも「有能」「無能」の区別は生じる

このときに、生産への貢献によるヒエラルキーの設定の阻止のために、

組合は重要な機能を果たす

- 基盤的コミュニズム(byグレーバー)
 - 「各人はその能力に応じて、各人にはその必要に応じて」
 - →グレーバーはコミュニズムの論理、それも、

私たちの日常に既に存在し、私たちの基盤をなしているものとして捉える 現実に内在し、現実の内側で作動する論理、私たちが日常生活を営む中ですでに作動している哲学的・倫理的な原理、しかも社会そのものを成立させているもの

例)企業の基盤にもコミュニズム

資本主義の最先端にある企業でさえも、決して例外ではない

ペンの貸し借りやコピーを取ること、身内の不幸による欠勤の穴埋めetc

→いちいち決済を必要とするやりとりを通じて行われたりしない

相互扶助・基盤的コミュニズムこそが、実のところ、過去から現在に至るまで私たちとこの世界を成立させている

アナキズムで考える反核とパンデミック

アナキズムは国家レベルのもの・資本主義レベルのものには全て反対する 福祉はどうするんだとか言われるが、福祉は基本的に我々が国家に認めさせたもの 我々が国家に福祉を引き出させている

- →方法としては交渉・折衝ではない
 - つまり、蜂起・戦争によってでしか可能になった試しはない
 - (ヨーロッパはなぜ福祉が充実しているのか
 - →蜂起や暴動があるから以外の答えはない)

アナキズムで考える反核とパンデミック

こうした立場から反核・パンデミックを考えると......

核兵器に関しては軍需産業であり、国家を下支えする資本主義が前提

(実際、安保法制と景気は密接)

パンデミック、今回のCOVID-19に関しては決定的なエピセンターがまだわからないものの、資本主義(いうまでもなく中国は世界最強のネオリベ資本主義です)の開発経済が、未開の土地を切り開いてきたことで、棲み分けられていたコウモリが人間の世界にも現れた

いずれも、国家と資本主義の強欲の結果

アナキズムで考える反核とパンデミック

• じゃぁ、どうするか?

国家と資本主義をまずは廃絶すればいい

そのためにはどうするべきか

蜂起・暴動・戦争

そして誰一人殺さずに、国家と資本主義を廃絶すること

(こんなことが可能なのか? 実は私たちが常にすでに生きている状態はアナキズムでしかない。革命後の世界を実は生きている、革命以前なのは国家と資本主義)